

# 館長室へようこそ①⑥ 無知の涙を流さないために

図書館長 古川 聡

「無知の知」は、ソクラテスの言葉として有名であろう。自分は何も知らないということを知っている。知らないということを知覚しているからこそ、さまざまな物事を知ることができ、善き人生をまっとうできるといえるのである。では、「無知の涙」という言葉はご存知だろうか。これは連統射殺犯として死刑判決を受け、すでに処刑された永山則夫という人物が、かつて獄中で書いて出版した手記のタイトルである。想像を絶するような極貧生活を幼少期に送っていた彼が、罪を犯し投獄されて初めて、自分が何も知らなかったことを知り、そして涙したのである。知らないことは悲しいことだが、自ら知ろうとせずに知らないままにすることはさらに恥ずべきことではないだろうか。

館長になって図書館で五回目の春を迎えた。館内を巡りながら参考図書コーナーでインドの美術館の本が目が止まり、書庫を歩きながら音楽心理学の本が入っていたことを初めて知る。四年間務めていながら、存在すら知らなかった本があまりにも多い。職員の仕事も多岐に渡り、未だに全容を把握できていない。購入した本が書庫に入るまでには目録づくりもあれば、ラベルを貼るなどの装備も必要になる。たんなる利用者では気がつかない多様な作業が裏側でなされている。少し知ると、そこから興味が広がる。

図書館を最大限有効に使ってほしい。何も用事がなくても図書館に来て、閲覧室で目についた本を手にとってほしい。読まなくてもいい。眺めるだけでもいい。OPACで楽譜も借りてほしい。毎年たくさん本、楽譜、音源や映像を購入して利用に供している。読んでほしい本であっても、書庫に眠ったままではあまりにも悲しい。それこそ資料たちは、利用されてもらえず涙を流しているのではないだろうか。そうならないよう、私たちも努力していきたい。

## 図書館のう・こ・き……………耐震工事報告①

今年からいよいよ始まる4号館耐震工事。工事の第一の目的は、建物の耐震性を高め安全・安心な建物にすること。このため、4号館では主に、①図書館外壁に耐震用の“アウトフレーム”を取り付ける、②壁で補強する、の2つの方法で耐震性を高めます。併せてこの機会に、時代の変化で使いづらくなった設備、建物の機能等を見直し、リニューアルを行います。この工事が終了すると、新4号館は、1階：楽学資料館、2～4階：図書館、5階：音楽研究所ほか事務スペースと、フロア構成が大きく変わります。図書館は3フロア分を使うことになります。

本格的な工事は今年の6月からスタートし、3～4階の工事は12月に終了予定です。この後、図書館はリニューアルされた3～4階に場所を移し、来年（2016年）1月以降、1～2階と5階が工事に入ります。一連の工事が終了するのは2016年3月末となります。

工事にあたっては、大きな音や振動の発生する作業は、夏休みなど長期休暇の間にまとめて行い、図書館はいつもどおり開館する予定です。とはいえ大規模な工事なので、日常的に音や振動が発生したり、開館スケジュールが変更になる可能性もあります。

図書館ホームページで、お知らせや開館スケジュールを確認するようにしてください。